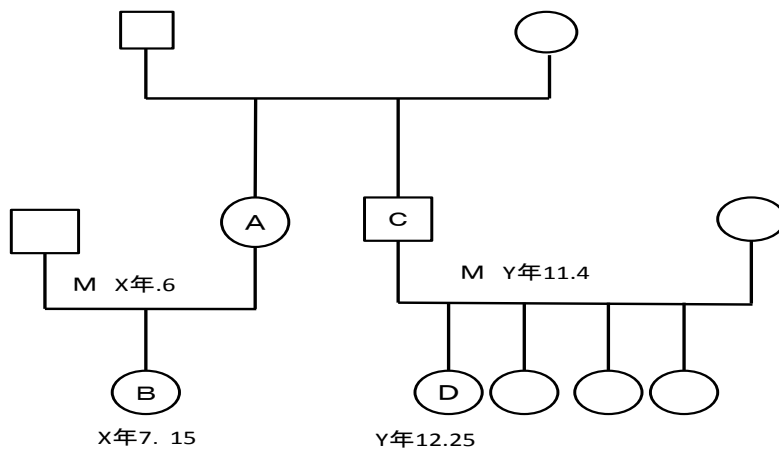


日本のジェノグラム

早樫 一男

12

次のジェノグラムをご覧ください。どのようなことが浮かびますか？



BさんはX年の7月15日に生まれています。同じ年の6月に母親（Aさん）は結婚しています。

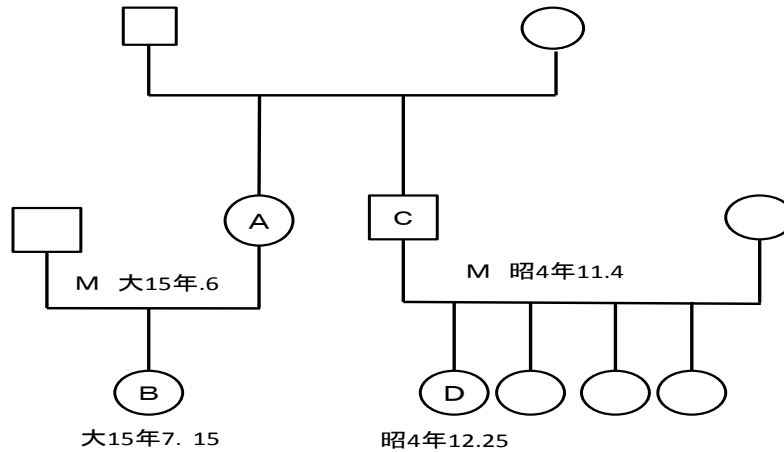
また、DさんはY年12月25日に生まれています。そして、父親（Cさん）は同じ年の11月に結婚しています。

これらの情報から、どのようなことが浮かびますか？この二組の夫婦は「できたちゃった婚？」「おめでた婚？」ではないかと想像された方も多いのではないのでしょうか？

さらに、AさんとCさんの姉弟揃って、このような特徴がある家族かもしれないと思っても不思議ではありませんね。

年代の情報を追加すると…

X年やY年に実際の年代をあてはめたのが次のジェノグラムです。



Xは大正15年（1926年）、Yは昭和4年（1929年）となります。そして、Cは私の祖父、Dは私の母です。

たまたま、残っていた古い戸籍などを改めて目にする機会がありました。これまで、何度か目にしてはいたのですが、今回、「ジェノグラム入門（後述）」を出版するにあたり、改めて、見直してみました。

古い戸籍やその他の文書等をまとめてみて、作成したのが、先程のジェノグラムです。家族関係についてはこれまで分かっていたのですが、今回、具体的な日時も付け加えたという訳です。

戸籍の記載を通して思い浮かぶこと…

私の祖父母や妻の祖父母などから、「昔は戸籍の届け出た日時はそんなに厳密ではなかった」というような趣旨のことを聞いた記憶があります。

例えば、「〇〇ちゃんは年末に生まれたけれど、忙しかったので、年が明けて、落ち着いてから届けた」というような話です。そのような話を聞いておられる方もあるかもしれません。

今回、作成したジェノグラムから考えたのは、婚姻の届けや日時の記載に関することです。例えば、祖父の場合、結婚した（結婚式をあげた）のは11月ではなかったと思います。その証拠となるのは、祖父母の新郎新婦としての写真が残っており、裏に日付が入っていたからです。婚姻届の前に、既に夫婦としての生活は始めていたと思われる。実際

の結婚式と婚姻届のズレは、忙しかったから届けが遅れたという理由ではないのではかということを考えてみました。このズレは、当時の時代背景が関わっているのではないかということ。

女性は子どもを産むことが最優先の求められた時代であり、妊娠がわかり、出産が間近に迫った頃に、正式に籍を入れたのではないかということです。

夫婦として暮らしていても、籍を入れるのは、子どもの妊娠（出産間近）という根拠が必要だったのかもしれませんが。ただし、この点はまったくの推測でしかありません。

時代背景や日本の風潮や文化（価値観）を感じることになりました。

実は…

Bさんは生まれて間もなく亡くなっています。さらに、AさんはBさんが生まれた次の日に亡くなっています。おそらく、出産前後のトラブルではなかったかと思います。25歳ぐらいの若さでした。女性にとって、「お産」は命をかけた大きな出来事というのは、昔も今も変わりません。ちなみにAさんの夫はその後、再婚しています。

原家族をたどる…

これまでも、三～四世代遡った我が家のジェノグラムを作成しているのですが、改めて、具体的な日時なども確かめながら、思いを巡らせてみようと考えています。これまで気が付かなかった発見があるかもしれません…。

(つづく)

【対人援助職のためのジェノグラム入門】 （中央法規出版）のお知らせ！！

前回も紹介しましたが、ジェノグラムに関するまとまった読み物があればという願いを込めたのが、一冊の書物になりました。「対人援助職のための家族理解入門」(団士郎著 中央法規出版)の兄弟版になればと願っています。定価は1600円です。

